

平成26年度 徳島県立小松島西高等学校 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
1 基礎学力の確実な定着を図るとともに、自主的に学習しようとする習慣及び態度の育成を図る。	(1) 公開・研究授業等を通して教科指導の充実を図る。  〔教務課，教育相談・研修課〕	評価指標 ①公開・研究授業を年に1回以上実施する。	評価指標による達成度 ①達成率100%	総合評価 (評定) A	(1) 公開授業週間におけるの授業参観は、一人当たり2.8時間であり少ない。実施時間・回数を増やすとともに、その内容を工夫してほしい。  ○今年度は、耐震工事により、中学生体験入学を実施できなかったため、PTA総会及び参観授業が、オープンスクールと同時開催となった。次年度は、分離開催することで、落ち着いて中学生に授業体験を受けてもらえるよう計画したい。
		活動計画 ①校内公開・研究授業週間を設定し、公開・研究授業を実施する。	活動計画の実施状況 ①1学期の5月1日のPTA総会及び同時に開催された中学生対象の体験入学において、保護者や中学生が公開授業を参観した。2学期には、公開授業週間を設けた。また、年間を通じて該当年次研修の研究授業を行った。	(所見) ・PTA総会当日は、中学生体験入学が同時に開催されたため、公開授業には保護者以外の多数の方々に参観していただいた。  ・「とくしま教育の日」に合わせて公開授業週間（10月27日～31日）を実施した。また、その週には人権教育ホームルーム活動が行われたこともあり、教員相互の授業参観は一人当たり2.8時間行われ、昨年より0.5時間増加した。  ・教科会では、学力向上と授業力改善に向けての各教科の取組を話し合い、学校全体として生徒の学力向上に役立てた。	
		②教員相互の授業見学を行い、学習指導方法や学習評価及び教育課程についての研究に努める。 ③各教科会で指導方法等を研究し、生徒の実態に即した計画的な指導法と評価方法を確立し、授業改善をはかる。	②教員相互の授業見学を実施し、授業見学シートを交換することによって、相互評価を行った。 ③各教科で教科会を実施し、指導法・授業改善をはじめ、教育課程・教科書採択・各種検定について話し合いを持った。評価に関して教科内での共通理解を図るとともに、授業力向上のために話し合った。		
(2) 基礎学力の確実な定着を図るとともに、自主的に学習しようとする態度を育成する。  〔進学課〕	①生徒の基礎学力の向上と学習の習慣づけを目指す。今年度より、各学年第1回課題テスト（英・数・国）及び1・2学年第2回課題テストを校外模試で実施し、結果を分析し現在の実力を認識させる。 ②定期考査前に学習時間調査を実施する。（年3回）	評価指標 ①達成率100%	評価指標による達成度 ①達成率100%	総合評価 (評定) A	(2) 課題テストは、年度当初に出題範囲を明示し、計画的に勉強に取り組みよう指導してほしい。 「学校は、自宅学習の習慣づけを指導している」と答えた保護者は、45%である。  ○学習時間0時間の生徒に対し、HR担当が面談の機会を利用し、直接指導することにより、家庭での学習を定着させる。
		活動計画 ①全校集会や学年集会で学習習慣を確立することの重要性について話をする。ホームルーム活動を利用し、進路情報を提供する。	活動計画の実施状況 ①全校集会や学年集会の機会をを利用して、学習習慣を身につけるよう呼びかけた。大学・短大・専門学校の紹介談を各HRに配布するなどして、68%の生徒から進路情報の収集や提供を積極的に行っているとの評価を得た。	(所見) ・校外模試は、データを分析することにより現在の自分の実力を全国レベルで知ることができたため、有効に活用することができた。 ・校外模試の結果を用い、具体的な目標ラインを示して呼びかけたことが、生徒のモチベーションの上昇につながった。	
		②毎学期、定期テスト前に家庭学習時間調査を実施し、生徒の学習への取組状況等を把握する。学年別に前回と比較したグラフを教室掲示し、自主学習時増加の動機付けとする。	②家庭での学習時間が0時間の生徒の総数がやや減少した。結果をグラフ化し、コメントをつけて、各HRに配布した。家庭での学習時間が、0時間の生徒の総数が、245人から162人に減少した。		
(3) 各種検査や学力養成のための試験等を実施し、生きる力を養う。  〔就職課，進学課〕	①希望者を対象に進学・就職補習（5月～随時）を計画・実施する。 ②1年次に生徒理解検査、2年次に職業適性検査、3年次にクレベリン検査を実施する。	評価指標 ①達成率100%	評価指標による達成度 ①達成率100%	総合評価 (評定) A	(3) 4年制大学の「管理栄養士や看護師を養成する学部」を受験する生徒への進学補習の充実をさらに図ってほしい。  ○全校生徒を通して、また、各HRでの個人面談を通して、進学・就職補習の参加を呼びかける。  ○企業の適性検査も多様になってきており、昨今の状況を把握し、次年度に実施する検査を検討したい。
		活動計画 ①課題テストは、進路年間計画に位置づけ、年度当初に時期と範囲を知らせ、学力養成につなげる。	活動計画の実施状況 ①1・2年生は年間3回、3年生は年間2回の課題テストを実施した。	(所見) ・進学・就職補習・課題テストは、計画通り実施し、校外模試でD3ランクの生徒が減少し、生徒の学力向上に寄与した。 ・進学・就職補習とも希望者に対して実施することができた。とくに就職補習は昨年の2倍近く希望者が増え、出席率も上昇した。 ・就職試験においても適性検査の実施が年々増えており、学年に応じた検査を実施	
		②進学・就職補習実施担当者は各担任との連携を密にして、生徒に時機を得た適切な指導ができるように配慮する。	②進学・就職の補習を担当する者は各担任との連携を密にして、進学希望者には、志望校の過去問題研究を実施するなど、生徒に適切な指導をすることが		

		<p>③校外模試の成績等を活用し、より具体的な進路目標の決定や、実力の更なる向上につながるよう助言する。</p> <p>④各種検査を通して生徒の自己理解を図る。</p>	<p>ができた。</p> <p>③校外模試の結果報告会を実施した。基礎力診断テストの結果について学年団別の検討(6月)、希望生徒対象の検討(10月)を行った。</p> <p>④検査結果を進路決定の参考にした。</p>	<p>し、それに基づく自己理解に利用することは有益と思われる。</p>	
<p>(4) 図書館の利用を拡大し貸出冊数の増加を図るとともに、幅広くさまざまな分野の図書に親しみ、充実した読書経験を持つようとする。</p> <p>〔図書・研究課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①図書委員会を各学期2回実施する。</p> <p>②図書館だよりを発行し、新着図書の案内をするとともに、計画的な図書の展示を行い、生徒の読書意欲を喚起する。</p> <p>③貸出冊数を前年度より増加させる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①達成度 100% 各学期2回の図書委員会を行った。</p> <p>②達成度 100% 図書館だよりを隔月発行した。</p> <p>③達成度 100% 貸出冊数は年間一人当たり3.6冊であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p>	<p>(4) 図書館利用の充実について、工夫を凝らしてほしい。新しい時代に対応した図書館の活用方法を考える必要がある。</p> <p>○図書館だよりをさらに充実させ、図書館活用に努める。生徒にさらに利用を増してもらえよう魅力ある図書館レイアウトや各授業との連携をはかっていきたい。</p>	
	<p>活動計画</p> <p>①図書委員が中心となって図書館の広報活動を行う。特に、図書館だよりを年8回発行する。</p> <p>②集団読書会用テキストを使ったHR読書会を年2回実施する。</p> <p>③昨年度の生徒一人あたり貸出冊数3.1冊より増やす。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①1学年全ホームルームに対し、オリエンテーションを行い、その後実際に1人1冊以上の貸出を行った。図書館だよりは年8回発行できた。図書委員会の出席率は常に90%以上であった。</p> <p>②本年度は、ホームルームで集団読書会用テキストを用いた読書会を年2回、6月と10月に実施した。</p> <p>③貸出冊数は3.6冊であり、昨年度より増えた。</p>	<p>(所見)</p> <p>・読書ばかりでなく、自習などの図書館利用が増えたため、貸出冊数は昨年度よりは増えた。</p>		

重点課題	重点目標	評価指標(と活動計画)	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
<p>2 基本的な生活習慣の確立を図るとともに家庭との連携を密にし、個々の生徒への支援体制の強化及び食育の推進を図る。</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>〔生徒指導課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①年間遅刻者数を、前年度より10%以上減少させる。</p> <p>活動計画</p> <p>①毎朝、複数の教員が3箇所の校門に立ち登校指導を行う。遅刻防止と自転車のマナー向上のため声かけを行う。</p> <p>②毎月、遅刻調査を実施し、多遅刻(月に5回程度)の場合は担任が保護者と面談し、支援・協力を要請する。学校と家庭が連携をとりながら改善を目指す。</p> <p>③学年団ごとの遅刻指導を実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①年間遅刻者数は、昨年度より10.2%増加した。(12月末現在)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①昼休みの校内巡視を毎朝の登校指導に変更し、生徒の遅刻防止と自転車交通マナーの向上、あいさつ運動を実施した。</p> <p>②毎月遅刻調査を実施し、遅刻した生徒には学年団で連携して遅刻防止の意識向上に努めた。</p> <p>③多遅刻生徒には、家庭と連携をとりながら改善を依頼した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) C</p> <p>(所見)</p> <p>・全教職員が協力して遅刻防止に取り組んだが、目標を達成できず5年ぶりの増加(10.2%増)となった。校内巡視を毎朝の登校指導に変更し、遅刻防止の意識は向上したが多遅刻生徒が多かった。また、あいさつ運動を実施することにより、朝の生活リズム「基本的な生活習慣の確立」は実践できた。</p>	<p>(1) 学校周辺での自転車のマナー違反が目立つので、指導の徹底をお願いしたい。</p> <p>○学校生活全体は、落ち着いており、特に目立った問題は見当たらないが、遅刻生徒が増加した。(前年度比10.2%増)多遅刻生徒が増加傾向にある。大幅な遅れではなく、数分の遅れという生徒が多い。「時間に遅れない」という意識を向上させなければならない。</p>
	<p>(2) 服装・頭髪など身だしなみについて考えさせるとともに、ルールやマナーを守る指導を充実する。</p> <p>〔生徒指導課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①毎月1回、全校集会を実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>①毎月初めに全校集会を実施する。ルールやマナーなど社会の規律について話す機会を持ち、全員が平等に学習し、いじめのない学校づくりを目指す。また、服装や頭髪について考える機会を学年別に設定する。</p> <p>②授業の開始時に服装を点検させる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①達成度は100%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①毎月初めに全校集会を実施した。学校生活や社会生活を営む上での規律やマナーについて理解させた。その後学年別に服装・頭髪指導を行い、高校生にふさわしい身だしなみについて考える機会を持った。</p> <p>②始業号令時に身だしなみを整えさせる。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>・学校長訓話、生徒指導課からの学校内外の生活における様々な話題を通じて、生徒の規範意識を高められた。</p> <p>・服装・頭髪指導は、学年別・男女別に学年担当の複数教員が立ち会い指導した。一部に指導の必要な生徒もいるが、全体的には落ち着いており、実施により着実な成果が得られている。</p>	<p>(2) 「学校は、社会のルールや日常生活のマナーの指導に努めている」と答えた保護者は、98%である。</p> <p>○服装・頭髪等、高校生としてふさわしい姿を身につけさせることはできているが、自転車の交通マナー等「命にかかわる」自分の行動をもっと理解させなければならない。また、朝急いで登校する自転車通学生の意識向上をはかる。</p>

<p>(3) 保健安全管理を適正に行なうと共に、健康安全教育の推進を図り、厚生関係の事務処理を適正に行なう。</p> <p>〔保健厚生課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①保健意識の向上と病気等の予防を図るための啓発活動を1回以上行う。 ②疾病予防の知識を行動に繋げるために、各種感染症予防対策を1回以上行う。 ③定期健康診断で所見のあった生徒の再検査受診率を昨年度より10%以上上げる。 ④定期健康診断の再検査未受験者に対する受診勧告・個別指導を1回以上行う。 ⑤正しい食習慣や生活習慣についての啓発活動を年1回以上実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>①生徒への保健行事を行う。 ②インフルエンザ等に対する情報収集、予防・対応法を調査し、啓発活動を1回以上行う。 ③生徒の健康診断の事務処理を適正に行う。 ④希望する生徒に対する厚生関係事務処理を適正に行う。 ⑤徳島県奨学金・日本学生支援機構による奨学金等の各種奨学金申請希望者に対する事務処理を適正に行う。 ⑥職員や生徒に対して「AEDの使用法」等の研修会を1回以上実施する。 ⑦体重測定を年2回実施し、適正体重についての認識を深めると共に、正しい食生活についての生徒の意識を高める。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①達成率100% ②達成率 100% ③達成率 90% ④達成率 100% ⑤達成率 100%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①健康診断・諸検査を実施した。 ②インフルエンザに対する対処法、予防法について、各クラスの生徒へ文書を提示・配布した。 ③各種健康診断に際しての生徒指導、事務処理を行った。 ④関係する生徒に対して、厚生関係の事務を適正に実施した。 ⑤各種奨学金を希望する個々の生徒に対して個別に対応し、事務処理を適正に実施した。 ⑥職員や生徒に対して「AEDの使用法」等の研修会を2回以上実施した。 ⑦体重測定を年2回実施し、適正体重についての認識を深めさせた。また、正しい食生活についての生徒の意識を高めることができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各項目については、概ね活動計画のとおり実施することができた。</li> <li>インフルエンザ対策については、その年の発生状況について、常に全国状況・地域状況に留意して、臨機応変に対応することができた。</li> <li>各種奨学金関係の事務については、希望する各生徒に対して、より懇切丁寧な対応に心がけ実施した。</li> <li>研修会については、その時々状況にあった効果的なものを取り入れ実施した。</li> <li>学校保健委員会を開催し、生徒の健康課題を把握し、協議することができた。</li> <li>生徒保健委員会を定期的に開き、健康課題に対応した文化祭での保健展示や保健だより作成等、学校保健組織として啓発活動を実施した。</li> <li>衛生委員会を実施した。</li> <li>体重測定を2回実施し、適正体重について考えさせると共に、食生活の望ましいあり方を考えさせた。</li> </ul>	<p>(3) 「学校は、生徒の健康に留意した指導を行っている」と答えた保護者は、97%である。</p> <p>○インフルエンザ等の感染症は、毎年流行の時期・特徴が異なるため、常にこれらの情報に留意して、できるだけ速やかに望ましい予防対応法を探る。</p> <p>○今後も常に生徒の健康状態に留意し、臨機応変に、より望ましい対策を講じる。</p> <p>○健康診断再受診率の割合のさらなる向上をはかる。</p> <p>○今後も健康教育・健康指導の推進のより効果的な方策を研究し、実践する。</p>
<p>(4) 特別支援教育の推進をめざし、特別な支援を必要とする生徒に対する本校教員への研修を実施し理解を深める。また、いじめや不登校等の未然防止のために、教育相談活動の充実と学校全体で対象生徒を支援する体制を確立する。</p> <p>〔教育相談・研修課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①教職員の特別支援教育研修を年に1回以上開催する。 ②特別支援委員会を各学期1回実施し、特別な支援を必要とする生徒やいじめや不登校等の傾向のある生徒についての対策を検討し、学校全体の共通理解のもと、支援を行い、事後報告書を提出する。 ③年間10日以上欠席者数を10%以上減少する。 ④教相談室において、昼休みを中心に個別の教育相談活動を展開し、日頃から信頼関係を築き、生徒がいじめを訴えやすい雰囲気作りを行う。特に問題のある生徒など活動記録に記入する。 ⑤特別な支援を必要とする生徒に対しての下学年よりの進路指導に向けての取り組みを支援する。</p> <p>活動計画</p> <p>①教職員に対し、本校の特別支援教育について説明すると共に、特別支援教育研修を実施する。本年度は、みなと高等学園の巡回相談員の方より、個別の指導計画についての演習形式の研修会を実施する。 ②特別支援委員会においては、特別な支援を必要とする生徒やいじめや不登校傾向のあ</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① 達成率 100% ② 達成率 100% 事後報告書は2学期のみ ③前年度比35%増となった。(2学期末) ④ 達成率 100% ⑤今年度より地域若者サポートステーションの高校生への支援がなくなり、連携しての面接等の支援ができなくなった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①①1学期「個別の指導計画」と題して、みなと高等学園の巡回相談員の方より講義・演習を受けた。2学期は、鳴門教育大学大学院 古川洋和氏による「高校生に対するエビデンスに基づいた自殺予防の取り組み」と題する講演を実施した。 ②各月5日以上欠席した生徒について、担任・学年主任等が家庭訪問等を通じ</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価指標①については、ほぼ達成できた。</li> <li>②について、特別支援委員会は、学期ごとに実施したが、報告書については、2学期末の経過のみとなった。</li> <li>③については、35%増となった。不登校傾向を示す生徒に対して今後よりいっそうきめ細かな指導が必要である。</li> <li>④の教育相談室の本格的な活用と⑤の進路との連携やコミュニケーション能力で面接等でつまづく生徒については、今後の課題として残った。</li> </ul>	<p>(4) 教育相談活動や特別支援教育について保護者に周知できていると答えた保護者は、81%である。</p> <p>○今年度は、2学期末10日以上欠席者の減少を目標とした。特別支援委員会で検討協議した生徒は減少しているが、進路に影響しかねない欠席日数の生徒は多い。今後のスクリーニングの指標について見直す必要がある。</p> <p>○文部科学省による「子供の心のケア対策研修会」に参加して、改めて教員の精神疾患や発達障害の基礎知識を持つことの重要性が認識された。来年度は、この基礎知識の研修も取り入れ、全教職員で生徒の心のケアに取り組める体制を整えたい。</p> <p>○特別な支援を必要とする生徒やコミュニケーション能力が不足する生徒への進路に向けた対応について、進学課・就職課と連携して取り組みたい。</p> <p>○本年度は、いじめに関する問題は表出しなかったが、いじめの未然防止に向けて、日々の教育相談体制の強化をはかり、教育相談室の効果的な活用を考えたい。</p>

	る生徒の対策を検討し、学校全体の共通理解のもと、支援を行うとともに、対策実施後の報告書を作成する。	て、状況の把握に努めた。各学期末に実施した特別支援委員会において、対象生徒についての対応の検討や共通理解を図るとともに、事後報告書を提出（2学期末）してもらい経過を支援した。特に特別な支援が必要な生徒への対応についてスクールカウンセラーやみなど高等学園巡回相談員の方の支援を受けた。		
	③教育相談室において、昼休みを中心に生徒の自由な入室を促し、個別の教育相談活動を展開し、教育相談室記録をつけ、各担当者の連携を図るとともに、いじめの早期発見に努める。	③昼休みに教育相談室を開放して、生徒の個別の教育相談を実施した。一部の生徒に訪問は限られた。記録簿作成し、課員の連携に努めた。		
	④特別な支援を必要とする生徒の進路指導について、就職課・進学課と連携のもと、支援していく。	④特別な支援を必要とする生徒について、1年からの指導により就職決定した生徒がいた反面、通常の授業では問題のない生徒が就職面接でつまづくケースもあった。		

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
3 キャリア教育の充実を図り、進路の実現をより確かなものにする。	(1) 望ましい人生観、勤労観、職業観を育成するため、キャリア教育を一層推進する。  〔各学科〕	<b>評価指標</b> <b>&lt;商業科&gt;</b> ①単元テストや確認テストを実施する。また、それに対する家庭学習課題を提示する。 ②商業に関する各種資格検定の受験を奨励し、各検定合格率上昇を目指す。資格取得の意識を高め、日商検定受験合格を目指す。 ③卒業時、全商検定3種目以上1級合格者の50%以上増加を目指す。 <b>&lt;食物科&gt;</b> ①家庭科技術検定（食物調理） 1年－4級・3級（100%合格） 2年－2級（100%合格） 3年－1級（100%合格） ②校内における実技検定 1年：日本料理（かつらむき等） 2年：中国料理（北京鍋の振り方等） 3年：西洋料理（ツルネ オムレツ等） ③その他の資格取得 食育インストラクター 100%合格 技術考査 100%合格 ④糖尿病や嚥下食について学習し、年に4回以上ミニカフェを実施し、食育リーダーとして正しい食生活について校内や地域の方々に提案する。 <b>&lt;生活文化科&gt;</b> ①家庭科技術検定（被服製作） 4・3級（100%合格） 2級（100%合格） 1級（85%以上合格） ②色彩検定 3級（50%以上合格） ③インターンシップ全員参加 ④ファッションショー観覧全員参加 ⑤各種コンテストへの応募、一人2点以上 <b>&lt;福祉科&gt;</b> ①介護福祉士国家試験の合格率90%以上をめざす。 <b>活動計画</b> <b>&lt;商業科&gt;</b> ①単元テストや確認テストを実施し、学習内容の定着を図る。課題を提示することにより、家庭学習の習慣付けを図る。 ②学習の理解度を高め、生徒それぞれが目標とする資格取得につながる補習を実施する。 <b>&lt;食物科&gt;</b> ①食物専門教科において小テストの実施	<b>評価指標による達成度</b> <b>&lt;商業科&gt;</b> ①達成率93% ②検定合格率48.5% ③3種目以上合格者 8名 5種目1名、4種目1名、3種目6名 <b>&lt;食物科&gt;</b> ①家庭科技術検定（食物調理） 達成率100% 1年－4級・3級 2年－2級 3年－1級 ②校内における実技検定 達成率 100% ③その他の資格取得 食育インストラクター 達成率 98.5% 技術考査 達成率 92.8% <b>&lt;生活文化科&gt;</b> ①家庭科技術検定（被服製作） 1年生4級 達成率 100% 3級 達成率 89% 2年生2級 達成率 63% 3年生1級 達成率 65% ②色彩検定合格者 2年生3級 合格率48% （前年度比、14%減） <b>&lt;福祉科&gt;</b> 介護福祉士国家試験合格率 85.3% <b>活動計画の実施状況</b> <b>&lt;商業科&gt;</b> ①単元テストや確認テストを実施した。次回の内容の予告を心がけ、課題を提示した。 ②検定の受験を奨励し、各種検定前の補習を実施した（放課後、夏季・冬季休業中）。 <b>&lt;食物科&gt;</b> ①食物専門教科において小テストを実施	<b>総合評価</b> (評定) B <b>(所見)</b> <b>&lt;商業科&gt;</b> ・①については、昨年と同様に科目の特性を考慮すると十分達成できた。③については、昨年より4名増加した。 <b>&lt;食物科&gt;</b> ・①②については、達成できた。③については昨年より減少した。100%合格を目指す早い時期から計画的に取り組むことが課題である。 ・食物専門教科において小テストを実施することができた。また、技術検定受験や調理実習で基礎技術の定着を図ることができた。授業時数確保する事ができた。 <b>&lt;生活文化科&gt;</b> ・①については、2・1級筆記については小テストの実施により昨年度より合格率を上げることができた。2級実技では、合格率が70%と低かった。 ・②については、昨年度よりも合格率は減少したが、補習実施は成果があった。 <b>&lt;福祉科&gt;</b> ・授業時間に比例して学習内容の定着が図れるとともに、他学年との共同学習などの学習活動の工夫により実習や演習などの項目において生徒自身の主体的な取組が見られた。 ・施設での介護実習の体験により、介護福祉士としての職業観を高めると共に学校での事前事後指導により学習の知識や技術の整理を行うことができた。	(1) 商業検定については、日商検定2級取得を目標にがんばってほしい。(大学卒業後の就職にも有利である) 地域の方を対象とした食育教室など積極的に食育を進めており、今後とも地域に開かれた学校としてがんばってもらいたい。 地域における4学科連携行事などよく活動できている。 国際交流事業では、マレーシアの学生に、生活文化科の生徒が藍染めを熱心に指導し、大変好評であった。 今後とも、各学科の専門性を生かした進路に進むことができるよう支援してほしい。	<b>&lt;商業科&gt;</b> ○引き続き学習習慣の定着を図る取り組みを行う。 ○検定受験に対して早期意識付けを行い、計画的な学習活動を促す。 ○生徒の能力を最大限引き出せるよう、コース・授業選択において適切な指導を行い、上位合格者増を目指す。 <b>&lt;食物科&gt;</b> ○基礎的な知識技術を確実に身につけさせる。資格試験合格100%を目指す。 <b>&lt;生活文化科&gt;</b> ○今後も朝のSHR時において小テストを実施する。TTのあり方を再検討し、授業を充実させる。 ○家庭科技術検定被服製作2級実技の合格率を上昇させる。 <b>&lt;福祉科&gt;</b> ○資格取得のため次年度も授業時数を確保すると共に介護実習や実習施設での行事への参加についても、生徒本人はもとより保護者の理解も深められるよう計画的に取り組む。

	<p>(考查時の専門科目の目標 60点)</p> <p>②各調理実習において技術の到達度の確認。技術検定合格に 向かって1・2年生は調理, 3年生は課題研究で取り組む。</p> <p>③7時間目の授業の実施 1単位につき, 35単位時間の確保と技術の確実な定着を図る。</p> <p>④食育リーダーとして, 他の学科の生徒や地域の方々対象に食育教室を開催し, 食に対する意識を高める。ミニカフェを通じて, 正しい食生活を提案する。</p> <p>&lt;生活文化科&gt;</p> <p>①進度表を作成し, 教員や生徒自身が進捗状況を確認するとともに技術の確実な定着, 向上を図る。</p> <p>②日々小テストを実施し, 学習の習慣や知識の定着を図る。</p> <p>③アパレル関連企業へのインターンシップの実施や専門学校 主催のファッションショー観覧を通して進路決定や職業観・勤労観の育成を図る。</p> <p>④各種コンテストに応募し, デザイン力や技術力の向上を図る。</p> <p>&lt;福祉科&gt;</p> <p>①専門科目の知識と技術を習得するため, 1単位35時間の授 業時間を確保する。</p> <p>②授業内容の定着のため単元テストや確認テストを実施する。</p> <p>③適切な課題を与え, 家庭学習を定着させる。</p> <p>④資格取得のため, 実習施設との連携を図り, 各年次に対応した実習を実施(事前・事後指導)し介護福祉士の倫理観の育成や職業意識を高める。</p>	<p>(考查時の専門科目の目標 60点)</p> <p>②技術検定合格に向かって1・2年生は調理, 3年生は課題研究で計画的に取り組んだ。</p> <p>③7時間目の授業等を実施して一単位につき, 35時間授業時間の確保と技術の確実な定着を図った。</p> <p>&lt;生活文化科&gt;</p> <p>①作品達成表を作成し, 生徒自身が主体的に記入し, 学習意欲の向上につながった。</p> <p>②検定合格という目標に向けて長期休業や放課後を活用して補習を実施した。被服製作技術検定では, 合格率100%には満たなかったが, 高い合格率を得た。</p> <p>&lt;福祉科&gt;</p> <p>①専門科目については週2回, 7限目の授業及び長期休業中の授業の実施により1単位35時間の授業時間を確保できた。</p> <p>②介護実習では1週間に1回以上の巡回指導や帰校日指導を行い実習施設との連携を図った。また3年間で61日間の施設での実習を行うことで現場の専門職の職業観を知り介護者としての倫理観を意識させた。</p>			
(2) 進路指導, 進路相談の一層の充実を図り, 進路決定や将来の生活における自己実現に必要な情報を提供し, 学力やそれにふさわしい態度の育成を目指す。  〔就職課, 進学課〕	<p>評価指標</p> <p>①個人面談を各学期1回以上実施する。</p> <p>②三者面談を年一回以上実施する。</p> <p>③3年生については, 進路決定に向けて面接試験指導を一人あたり6回を目標に実施する。進学希望者には夏季休業中に面接試験講習会を実施する。</p> <p>④進学希望の生徒に校外での進学ガイダンスを案内する。</p> <p>活動計画</p> <p>①年度当初に面談計画を立て, 各学期のできるだけ早い時期に実施し, 生徒の状況把握に努める。</p> <p>②保護者との面談を早期に実施するとともに, 日頃から家庭との連絡を密にし, 連携を図る。また, 進路決定に役立つ情報提供を行う。</p> <p>③7月下旬に3年生全員を対象に, 就職・進学希望者別に, 進路説明会を開催する。これを受けて生徒の個別面談指導に入る。</p> <p>④校外で行われる進学相談会の案内を全学年に対して行い, 積極的に参加するよう呼びかけるとともに, 進学先が具体化してきた生徒に対してはオープンキャンパスにも積極的かつ計画的に参加するよう呼びかける。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①達成度 100%</p> <p>②達成度 100%</p> <p>③3年生については, 進路決定に向けて面接指導を一人あたり6回を目標に, 学科長・正副担任を中心に科目担任・部活動顧問など多くの教員が関わり実施できた。</p> <p>④達成度 100%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①全生徒対象の個人面談を4月, 9月に2回実施した。</p> <p>②PTA総会終了後の個人面談および進路相談の実施。3学年については, PTA総会后に進路説明会を実施した。</p> <p>③1学期終業式後, 3年生全員を対象に就職・進学相談会を実施した。</p> <p>④校外で行われる進学相談会の案内を全学年に対して行い, 積極的に参加するよう呼びかけた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価指標については概ね達成されたが, 就職に関しては, 最初の受験での不合格者数が例年より多く, 今後は企業や職種理解など, 本人の能力や適性を考慮した相談や指導も早い時期から必要である。</li> <li>進学を希望する生徒に関しても, 志望校を早く決定し, 必要な経費などの情報を収集させる必要がある。</li> </ul>	<p>(2) 就職決定100%を目指して, 早い時期からの指導を進めてほしい。 「学校は, 個々の生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導をしている」と答えた保護者は, 91%である。</p> <p>○2学年後半から, 担任や学科長と連携し, 生徒の具体的な進路先の希望を把握し, 進路開拓や相談, 指導に生かしていく。 ○進学ガイダンスやオープンキャンパスに1年後半から積極的に参加するよう指導する。</p>	

重点課題	重点目標	評価指標(と活動計画)	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
4 学校行事や	(1) ホームルーム活動や生徒会活動, 各種	<p>評価指標</p> <p>①学校評価に関するアンケートにおいて, 「ホームルーム活動は活発に行われている」, 「生</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①ホームルーム活動は活発に行われているの問いでは教職員86%, 保護者86%,</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p>	<p>(1) ボランティア推進委員による近隣の駅の清掃活動は, 地域</p> <p>○ホームルームの独自性が出せる中身の濃い活動にするため</p>

奉仕的活動等に積極的に参加する態度を育み、地域社会に貢献する人材の育成を図る。	委員会活動の運営を自主的に行い、積極的に参加する態度を育てる。 〔特別活動課〕	徒会活動や各種委員会活動は活発に行われている」の問いが、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つが昨年は71%と56%であったが、両方70%以上になること。	生徒会活動や各種委員会活動は活発に行われているの問いでは教職員96%、保護者93%が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した。	A	の方と連携して熱心に活動できている。	に学校行事と連携させ時間数を確保したい。 ○生徒会活動をさらに充実させるため自主性を育て各種委員会を充分機能させたい。	
		<b>活動計画</b> ①生徒の自主性を尊重しながら、ホームルーム年間計画を作成する。 ②生徒会活動をより充実したものにするために、各種委員会を充分機能させる。	<b>活動計画の実施状況</b> ①生徒の自主性を尊重しながら、ホームルーム年間計画を作成した。 ②生徒会活動をより充実したものにするために、各種委員会を年3回実施し、充分機能させた。	(所見) ・学校評価アンケートの結果は、思いもよらないほど良好なものであったが、「ややあてはまる」も含まれるものであるため、検証方法について、さらなる検討が望まれる。			
		<b>評価指標</b> ①学校評価に関するアンケートの、「学校行事が充実しており、子供は学校生活に生き生きと取り組んでいる」の問いが「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで昨年は56%であったが、70%以上になること。	<b>評価指標による達成度</b> ①学校行事が充実しており、子供は学校生活に生き生きと取り組んでいるの問いでは教職員100%、保護者90%が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した。	総合評価 (評定) A	(2)文化祭など学校行事を参観する保護者の人数が、ここ数年増加しており好評である。	○体育祭・文化祭の実施時期について充分検討した。他の学校行事についてもより一層活気のある活動になるよう工夫したい。	
(2)学校行事や奉仕的活動に積極的に参加することで、自主性や協調性を身に付け、主体的な態度を育てる。 〔特別活動課〕	<b>活動計画</b> ①学校行事について考え、話し合う機会を設定することで、生徒が自主的・主体的に参加できるようにする。 ②奉仕的活動についても、地域社会に貢献するような活動に積極的に参加できるような機会を設定する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①学校行事について考え、話し合う機会を設定することで、生徒が自主的・主体的に参加できるようにした。 ②奉仕的活動についても、地域社会に貢献するような活動に積極的に参加できるような機会を設定した。	(所見) ・学校評価アンケートの結果は、思いもよらないほど良好なものであったが、「ややあてはまる」も含まれるものであるため、検証方法について、さらなる検討が望まれる。				
		<b>評価指標</b> ①学校評価に関するアンケートにおいて、「部活動が充実しており活発である」の問いが「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで昨年は71%であったが、80%以上になること。 ②部活動入部率が80%以上になること。	<b>評価指標による達成度</b> ①部活動が充実しており活発であるの問いでは教職員88%、保護者88%が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した。 ②部活動入部率は84%であった。	総合評価 (評定) B	(3)部活動の充実では、吹奏楽定期演奏会が毎年充実してきており、地道な活動の成果が感じられる。	○入部率は、高い水準で推移しているが、活動内容についても充実したものにしていきたい。活発な活動にできるように、複数名の顧問を配置したい。	
		<b>活動計画</b> ①部活動紹介や学年集会等で、部活動の意義や重要性を伝える機会を設定する。 ②部活動顧問の適切な配置をする。	<b>活動計画の実施状況</b> ①部活動紹介や学年集会等で、部活動の意義や重要性を伝える機会を設定した。 ②部活動顧問の適切な配置をする。	(所見) ・入部率が上がってきているが、男性教員が少なく、運動部顧問配置に苦慮している。			
(4)校内美化に努め、身近な環境問題に取り組める態度の育成をめざす。 〔環境教育課〕	<b>評価指標</b> ①全校生徒と全校教職員が積極的に清掃活動に取り組む。 ②環境美化委員会を実施し、ゴミの分別や清掃の徹底を推進する。 ③生徒・教職員ともに環境問題の意識を高め、実践的な取り組みをする。	<b>評価指標による達成度</b> ①普段の清掃活動は、積極的に清掃活動をする人としていない人との差が大きい。大掃除の時は積極的に清掃活動に参加する生徒が多い。 ②新学校版環境ISOの取り組みとして、環境美化委員は家庭クラブ委員や室長・副室長と協力してゴミの分別を実施した。各ホームルームは、概ね達成できた。 ③新学校版環境ISOの取組内容を掲示し、環境問題の意識を高めるようポスター掲示や環境美化委員の生徒への声かけに取り組んだ。	<b>総合評価</b> (評定) B  (所見) ・新環境ISOについて全校生徒・職員に対して十分な周知ができなかった。 ・大掃除等は、意欲的に取り組んでいたが、日々の清掃に不備な点があった。特に男子トイレの使用法が悪く、清掃当番の負担が大きくなった事があった。		(4)「学校は、環境美化活動に対して、生徒が積極的に取り組む教育をしている」と答えた保護者は、91%である。	○新環境ISOについて全校生徒・職員への十分な周知について集会等で呼びかけを行っていく。 ○トイレの使用法や、ゴミの分別方法など学校美化に関して担任と連携して指導を進めていく。	
		<b>活動計画</b> ①学年末や行事の日に大掃除を実施する。 ②紙の有効利用等の省資源活動に取り組む。資源ゴミの分別収集をしゴミの削減に取り組む。 ③教室や掲示板・トイレなどに電気・水の節約を呼びかけるポスターを掲示する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①学年末の大掃除に加え、1学期PTA総会前、2学期学校祭前、3学期は卒業式前、卒業式前に実施した。 ②会議資料や事務手続き書類のシステム化に取り組む機会が大幅に増えたことにより、大幅なゴミの削減ができた。 ③環境美化委員が中心となりプルタブやペットボトルのキャップの収集を行った。トイレなどにポスターを掲示し、環境に関する意識を高めるよう生徒を支援した。				

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
5 いじめのない教育環境づくりを進めるとともに、人権問題解決に向けて自主的・主体的に取り組む生徒の育成を図る。	(1) 人権問題について、生徒が自分自身で日常的に問題解決に向けて取り組む実践力を身に付けさせるとともに、いじめを許さない人権感覚の育成を図る。  〔人権教育課〕	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) A	(1) 「学校は、すべての教育活動の中で人権に配慮した指導を行っている」と答えた保護者は、94%である。  ○人権週間では、「人権委員からのメッセージ」、松西祭では「人権展」、講演「終着駅のないレールを走り…」などを実施したが、生徒自身が人権問題解決への意識の向上を実感するには至っていない。 ○あらゆる場面で様々な活動を継続させていくことにより、人権意識の向上を目指す。
		①学校評価に関するアンケートの(問)学校はすべての教育活動において、人権に配慮した指導を行っている。が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで70%以上となること。 ②学校評価に関するアンケートの(問)人権ホームルーム活動や人権教育講演会等を通じて人権問題解決への意識が高まっているが、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで70%以上となること。	①達成率 100%	(所見) ・①については、94%の生徒が、②については、88%の生徒が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えており、昨年より人権に対する意識が高まった。	
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①各学年、全教科において人権教育の視点を持たせた授業を実施する。在学中に「徳島県人権教育推進方針」に基づいた個人権課題を積極的に学習させるよう工夫する。  ②人権週間、松西祭での人権展、人権教育講演会などの機会を利用し、全ての生徒が人権について考え、代表者が意見を発表する機会を2学期末に1回設ける。	①各学年、全教科において、年間計画に基づいた授業を実施した。  ②人権週間では、「人権委員からのメッセージ」、松西祭では「人権展」、人権教育講演会「終着駅のないレールを走り…」を実施した。			
(2) 教職員の人権意識の高揚を図るため、計画的な研修の充実に努める。  〔人権教育課〕	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) A		
	①学校評価に関するアンケートの(問)職員に対する人権教育研修は、指導力の向上に役立っている。が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで70%以上となること。	①達成率 100%	(所見) ①について、「人権教育研修は、指導力の向上に役立っている」と答えた教職員は、86%となっている。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①年間2回教職員を対象とする研修会を実施する。また、学年団において人権ホームルームに関する事前の研修会を実施し、指導の充実に努める。 ②人権教育課員、新規転入職員を中心に識字学級に参加し、地域との交流の機会をもつ。 ③「セクシュアルハラスメント防止規程」の遵守を職員に徹底する。	①四人研大会・全人研大会発表内容に関する研修、人権ホームルームに関する事前の研修会を実施した。 ②識字学級に、年間12回参加し、地域住民との交流を深めることが出来た。 ③コンプライアンス研修の中で、「セクシュアルハラスメント」についても研修を行った。			

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
6 生命尊重を基盤とする安全教育を推進し、事故防止に努めるとともに、防災を図る。	(1) 災害などの非常事態に際し、自他の安全を確保することができる能力の育成と災害対策の強化を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) B	(1) 「学校は、命を大切にする学校環境の安全点検に努めている」と答えた保護者は、100%である。  ○地震発生の懸念もあり、防災計画書の内容を再点検するとともに、早めに防災計画書を作成し、その内容を教職員別に周知することにより、教職員の防災に対する意識をさらに高めたい。
		①生徒への防災教育と教職員の意識向上等を図り防災意識を高める。	①達成度 100%	(所見) ・様々な防災訓練等を実施し、教職員の意識を、ある程度高めることができた。	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①防災計画書を作成し、教職員の意識の高揚を図る。 ②1学期に火災対策の避難訓練と救出救護訓練を実施し、避難経路や防災に関する意識を高める。 ③2学期に地震時の津波に関する避難訓練等を実施し、避難経路を確認するとともに、防災に関する意識を高める。 ④防災ボランティア講師による講演会を実施する。	①防災計画書を作成し、計画した活動計画をすべて実施することができ、教職員の意識を高めることができた。 ②火災対策の防災訓練を5月8日に実施した。 ③10月に3年生全員が防災研修として地震のビデオ、救急法、救助搬送及び応急手当の講習をクラス単位で実施した。 ④10月31日に、県の防災センターによる地震の防災学習とボランティア活動に		

			ついて全校生徒を対象に実施した。		
--	--	--	------------------	--	--

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
7 保護者との連携をより深めるとともに、地域に開かれた学校づくりを努める。	(1) PTA活動の充実・促進に努め、教育活動全般について、保護者との密接な連携を図る。  〔総務課〕	<u>評価指標</u> ①PTA総会への参加者の割合を4割以上にするとともに、次年度に向けてさらに向上させる。 ②PTA研修の内容を検討し、年間で1回実施する。 ③各ホームルームの役員や評議員を中心とした会合を年1回以上実施する。	<u>評価指標による達成度</u> ①達成率 65% 保護者の来校は、146名であった。4割（228名）という目標には達しなかった。 ②達成率 70% ③達成率 100%	<u>総合評価</u> (評定) B  (所見) ・PTA総会当日の保護者の来校は、昨年と人数がほぼ同数であったが、4割以上には至らなかった。特に2年生の保護者の来校が少なかった。 ・保護者とは、総会後の面談、夏季休業中の三者面談だけでなく、信頼関係を継続させるために普段から密接に連絡を取っている。問題のあるなしに関わらず、学校の様子等を報告することは大変重要である。 ・PTA研修では、人権教育課と協力し、保護者も含めてすべての生徒と教職員の人権意識を高めるため、香川県大島青松園のハンセン病回復者についての講演会を実施した。たくさんの保護者の参加をいただき、大変有意義な研修となった。しかし、施設訪問が、台風のため中止になったことが非常に残念である。	(1) 「学校は、PTA活動の活性化に努めている」と答えた保護者は、94%である。  ○午前中の授業参観とPTA総会とへの出席を促進するためには、生徒を通じて確実に周知させること、委任状の提出などを検討したい。
		<u>活動計画</u> ①総会と参観授業についての内容を保護者のニーズに合ったものになるように工夫し、周知徹底させる。 ②年度当初の役員会・評議員会で検討し、希望に沿った研修になるよう計画し実施する。 ③PTA総会後や夏季休業中を活用して保護者との情報交換を行う。	<u>活動計画の実施状況</u> ①総会の報告をパワーポイントを使うことで、保護者にわかりやすくした。 ②例年と同じく人権教育研修として、香川県大島青松園訪問、事前・事後の研修合わせて3回を計画した。 ③役員・評議員を中心に体育祭の保護者バザーや円滑に進むように打ち合わせ会を3回実施し、3年評議員会と1・2年評議員会を各1回実施した。		
	(2) ホームページの更新回数を増やし、保護者や地域の方に本校の活動を理解してもらえるよう務めるとともに、緊急時や、学校行事等、常に有益で新しい情報発信を行う。  〔情報視聴覚課〕	<u>評価指標</u> ①ホームページのアクセス数を10%増やす。	<u>評価指標による達成度</u> ①達成度 100% (4月～1月までのアクセス数が100,434回から135,864回に増加した。)	<u>総合評価</u> (評定) A  (所見) ・昨年度と比べ、アクセス数を30%以上増やすことができた。ホームページの更新作業は、各担当者が、積極的に行い、内容の充実につながっている。 ・アンケート調査に保護者の要望等が分かったので、今後、内容のさらなる充実に努めていく。 ・スマートフォンの普及によりホームページがさらに身近なものとなっている。PTA総会等を活用し、今後もPRしていく。	(2) 「小松島西高校のホームページは、本校の活動を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者は、78%である。  ○ホームページの内容の充実にもリアルタイムでの発信を心がける。 ○保護者等の要望に応え、アクセス数の増加を目指していく。
		<u>活動計画</u> ①全ての教職員がホームページの更新に関わり、各科、課、学年、部活動等から有益な情報をリアルタイムで発信する。 ②PTA総会等を通じて本校のホームページへのアクセス方法について理解してもらえるよう努める。 ③保護者に対してアンケートを実施し、認知度を調べたり、どのような情報が求められているか把握する。	<u>活動計画の実施状況</u> ①年度当初にホームページ作成講習会を開いたほか、適宜ホームページに関する相談に応じ、内容の充実に努めた。 ②5月に実施されたPTA総会において、ホームページの紹介とQRコードを配布し、ホームページのPRに努めた。 ③PTA総会時にアンケート調査を実施し、ホームページについては72%の保護者が知っており、認知度は昨年度の50%より上昇している。保護者のニーズに対応できるよう今後も対応していく。		

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった